



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）吉田 匡慶

問合せ先責任者 （役職名）取締役財務管理部長 （氏名）間島 孝弘 TEL 0257-23-2333

半期報告書提出予定日 2025年11月7日 配当支払開始予定日 2025年12月8日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	52,929	3.2	1,485	△27.9	1,569	△23.7	1,128	△34.5
2025年3月期中間期	51,281	11.1	2,060	537.7	2,055	217.6	1,721	275.3

（注）包括利益 2026年3月期中間期 1,569百万円（10.1％） 2025年3月期中間期 1,425百万円（166.2％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	46.68	—
2025年3月期中間期	71.67	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2026年3月期中間期	92,584	62,614	67.6	2,590.21
2025年3月期	95,839	61,492	64.2	2,543.62

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 62,614百万円 2025年3月期 61,492百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	18.50	—	18.50	37.00
2026年3月期	—	20.00			
2026年3月期（予想）			—	20.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	118,000	4.0	6,000	△19.7	6,200	△18.3	4,300	△22.7	177.88

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期中間期	27,700,000株	2025年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	3,526,472株	2025年3月期	3,524,794株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年3月期中間期	24,174,190株	2025年3月期中間期	24,024,335株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、持続的な賃上げの定着による所得環境の改善や、訪日外国人観光客数の堅調な伸びを背景として緩やかな回復基調が続いているものの、米国通商政策や為替変動が及ぼす影響に加え、長期化する国際情勢不安などの景気下振れリスクが残る先行き不透明な状況で推移しました。

菓子・飲料・食品業界は、原材料価格ならびに各種費用の上昇への対応に加え、生活必需品の価格上昇により消費マインドが弱含みで推移する中、消費者の節約志向への対応が求められました。

このような状況の中、当社グループでは食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を一貫して推進しました。また、「エコシップマーク優良事業者」の認定や25mダブル連結トラックによる共同配送など、温室効果ガスの排出割合が低い輸送モードを活用した持続可能な物流網の構築に取り組みました。

その結果、価格改定を実施した一部商品などが伸び悩んだものの、節約志向が継続する中で“オリジナルビスケット”シリーズや“スタンダードビスケット”シリーズなどのロングセラー商品に加え、プチシリーズなどのお手頃な商品にご支持をいただいたことなどから、売上高は前年同期を上回りました。利益面では、生産性の向上とコストの削減、経費の効率的な使用に継続して努めたものの、売上原価の上昇に伴って、営業利益、経常利益ならびに親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期を下回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は、50,490百万円(対前年同期比102.7%)となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、コクのあるカスタード風味に仕立てた他社とのコラボレーション商品「ミニルマンドカスタード風味」を発売しご好評をいただきました。また、クラウンメロンのほか安納芋や和栗、長崎県五島列島産の“矢堅目の塩”を使用した通常品とは異なる味わいが楽しめる期間限定商品を発売し、積極的な売場展開を通して品目全体の活性化を図りました。加えて、「シルベリヌ洋梨のタルト風味」を発売し、ブランド認知と品揃え強化を図りました。そのほかにも、節約志向が続く中にある選べる楽しさを提供するプチシリーズや、ロングセラー商品である「ルマンド」などの“オリジナルビスケット”シリーズ、「チョコチップクッキー」などの“スタンダードビスケット”シリーズにご支持をいただきました。

チョコレート品目は、“アルフォートミニチョコレート”シリーズにおいて、和栗モンブラン味の発売に加え消費者キャンペーンの実施や販促物を活用した売場展開に取り組み、シリーズ全体でも順調に推移しました。また、通常品よりも贅沢なおいしさが楽しめる「じゃがチョコグラデリッチミルク」を発売しご支持をいただきました。さらには、「プレッツェルショコラ」が引き続きご好評をいただき、「ひとくちルマンド」を含む“ひとくち”シリーズや、「エブリバーガー」などのチョコスナック商品群も順調に推移しました。

キャンデー品目は、“フェットチーネグミ”シリーズにシャインマスカットホワイトソーダ味を発売したことに加え、ルート限定商品の展開を図りシリーズ品の底上げを図りました。“しゃりもにグミ”シリーズにもご好評をいただいたほか、気温の上昇に伴い「ミネラル塩飴」が順調に推移しました。

菓子全体の売上高は、価格改定の影響により伸び悩んだ商品や競争激化の影響を受けた商品があったものの、前年同期を上回りました。

飲料・食品・冷菓・その他の合計売上高は、2,439百万円(対前年同期比115.1%)となりました。

飲料品目は、飲みきりサイズのナチュラルミネラルウォーター「天然名水310ml」を発売し、新たなニーズの掘り起こしを図りました。また、「牛乳でおいしくこだわりココア缶180」の取り扱いが拡大し安定的に推移しました。

食品品目は、“かんたんクッキング”シリーズに焼きいもの様な味わいを楽しむことができる「のせて焼くやきいもシート」を発売し活性化を図りました。また、機能性食品群では、「スローバーベイクドショコラケーキ」を発売し品揃えの強化を図ったことで、“スローバー”シリーズが順調に推移しました。さらには、機能性表示食品「肌サボココア」の展開に加え、栄養機能食品に変更した「ミルクココア」の取り扱いが進みました。

冷菓品目は、新潟県産のブランドさつまいもを使用した「ルマンドアイスいもジェンヌ」と「いもジェンヌアイス」を発売し、既存品と併せた展開による活性化とともに地域産品の使用による地域連携を図りました。

その他では、通信販売事業は、季節や催事に合わせた企画商品やECチャネルオリジナル商品などメーカーならではの品揃えにより買い上げ点数の増加を図るとともに、サービス品質の向上を進めリピーターの増加と継続的な販路拡大に取り組みました。

自動販売機事業は、設置場所の見直しを行うとともに電子マネー端末の普及拡大を進め、自動販売機1台当たりの収益性向上や利便性の促進に取り組んだほか、交通拠点や学校関連施設を中心に新規開拓に努め、売上の底上げを図りました。

酒類販売事業は、エチゴビール30周年を記念した限定醸造商品や限定パッケージの商品を発売し、品揃えの強化によるブランド認知向上を図りました。

飲料・食品・冷菓・その他全体の売上高は、前年同期を上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当中間連結会計期間の売上高は52,929百万円(対前年同期比103.2%)、営業利益は1,485百万円(対前年同期比72.1%)、経常利益は1,569百万円(対前年同期比76.3%)、親会社株主に帰属する中間純利益は1,128百万円(対前年同期比65.5%)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は42,557百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,736百万円減少となりました。これは主に、季節変動要因による受取手形及び売掛金の減少があったことによるものです。固定資産は50,026百万円となり、前連結会計年度末に比べ480百万円増加となりました。これは主に、投資有価証券の増加があったことによるものです。

この結果、総資産は92,584百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,255百万円減少となりました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は21,576百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,308百万円減少となりました。これは主に、季節変動要因による支払手形及び買掛金の減少と未払金ならびに未払費用の減少があったことによるものです。固定負債は8,393百万円となり、前連結会計年度末に比べ68百万円減少となりました。

この結果、負債合計は29,969百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,377百万円減少となりました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は62,614百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,121百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益の計上と剰余金の配当ならびにその他投資有価証券評価差額金の増加があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は67.6%(前連結会計年度末64.2%)となりました。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は11,460百万円となり、前連結会計年度末(17,391百万円)に比べ5,930百万円減少となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は2,498百万円(前年同期323百万円の支出、対前年同期比771.6%)となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益1,593百万円および減価償却費2,629百万円と、棚卸資産の増加額5,655百万円および法人税等の支払額1,557百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,693百万円(前年同期2,991百万円の支出、対前年同期比90.0%)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,605百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は727百万円(前年同期682百万円の支出、対前年同期比106.6%)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出155百万円およびリース債務の返済による支出124百万円ならびに配当金の支払額447百万円があったことによるものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年4月25日の「2025年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,391	11,478
受取手形及び売掛金	14,771	10,945
商品及び製品	5,341	7,530
仕掛品	790	1,238
原材料及び貯蔵品	7,440	10,453
その他	563	918
貸倒引当金	△3	△6
流動資産合計	46,294	42,557
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	17,414	17,137
機械装置及び運搬具(純額)	13,194	13,519
その他(純額)	10,040	10,039
有形固定資産合計	40,649	40,696
無形固定資産		
のれん	519	462
その他	987	907
無形固定資産合計	1,507	1,369
投資その他の資産		
その他	7,388	7,959
投資その他の資産合計	7,388	7,959
固定資産合計	49,545	50,026
資産合計	95,839	92,584

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,169	10,760
短期借入金	810	810
未払法人税等	1,747	731
賞与引当金	1,477	1,825
その他	9,680	7,448
流動負債合計	25,884	21,576
固定負債		
社債	300	300
長期借入金	2,055	1,900
役員退職慰労引当金	288	283
退職給付に係る負債	4,934	4,907
負ののれん	7	6
その他	875	995
固定負債合計	8,462	8,393
負債合計	34,347	29,969
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,108	7,108
利益剰余金	53,947	54,628
自己株式	△903	△903
株主資本合計	61,189	61,870
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	957	1,376
為替換算調整勘定	△961	△893
退職給付に係る調整累計額	306	260
その他の包括利益累計額合計	303	743
純資産合計	61,492	62,614
負債純資産合計	95,839	92,584

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月 30 日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月 30 日)
売上高	51,281	52,929
売上原価	38,827	40,586
売上総利益	12,453	12,342
販売費及び一般管理費	10,392	10,857
営業利益	2,060	1,485
営業外収益		
受取利息	3	20
受取配当金	51	54
持分法による投資利益	44	—
負ののれん償却額	0	0
その他	68	76
営業外収益合計	168	152
営業外費用		
支払利息	11	18
持分法による投資損失	—	8
為替差損	144	20
減価償却費	10	6
その他	6	13
営業外費用合計	173	68
経常利益	2,055	1,569
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	475	64
特別利益合計	476	65
特別損失		
固定資産処分損	0	1
減損損失	8	1
投資有価証券評価損	25	37
その他	0	—
特別損失合計	34	40
税金等調整前中間純利益	2,496	1,593
法人税、住民税及び事業税	859	496
法人税等調整額	△84	△30
法人税等合計	775	465
中間純利益	1,721	1,128
親会社株主に帰属する中間純利益	1,721	1,128

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	1,721	1,128
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△374	419
為替換算調整勘定	103	67
退職給付に係る調整額	△26	△46
その他の包括利益合計	△296	440
中間包括利益	1,425	1,569
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,425	1,569
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,496	1,593
減価償却費	2,506	2,629
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	△55	△75
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	11	18
持分法による投資損益 (△は益)	△44	8
為替差損益 (△は益)	130	14
投資有価証券売却損益 (△は益)	△475	△64
固定資産処分損益 (△は益)	△0	0
減損損失	8	1
投資有価証券評価損益 (△は益)	25	37
売上債権の増減額 (△は増加)	4,139	3,824
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,119	△5,655
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,761	△1,406
未払費用の増減額 (△は減少)	△1,583	△1,322
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△32	△4
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△99	△95
その他	△617	△559
小計	585	△997
利息及び配当金の受取額	55	75
利息の支払額	△11	△18
法人税等の支払額	△953	△1,557
営業活動によるキャッシュ・フロー	△323	△2,498
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,495	△2,605
投資有価証券の取得による支出	△355	△85
投資有価証券の売却による収入	986	73
関係会社出資金の払込による支出	—	△44
その他	△127	△30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,991	△2,693
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△155	△155
社債の償還による支出	△100	—
リース債務の返済による支出	△102	△124
配当金の支払額	△324	△447
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△682	△727
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9	△11
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,007	△5,930
現金及び現金同等物の期首残高	19,575	17,391
現金及び現金同等物の中間期末残高	15,568	11,460

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

当社グループの事業は、食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類等の菓子及び飲料食品等の食料品の製造・販売並びにこれらの付随業務であり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。